

平成25年度 第2回 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会を、平成25年11月18日(月)に沖縄市役所にて行いました。

### <出席者名簿>

平成25年度 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会委員名簿(敬称略)

区分	名称・氏名	備考
学識経験者	沖縄自然環境ファンクラブ	
学識経験者	沖縄国際大学非常勤講師 佐藤寛之	
学識経験者	琉球大学大学教育センター非常勤講師 NPO 法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田喜久	
地域団体	社団法人沖縄県建築士会沖縄市支部	欠席
地域団体	泡瀬復興期成会	
地域団体	公益財団法人沖縄こどもの国	
行政	沖縄市教育委員会 指導部 市立教育研究所	オブザーバー
行政	沖縄市教育委員会 教育部 市立郷土博物館	オブザーバー
行政	沖縄市 市民部 環境課	オブザーバー
行政	沖縄市 建設部 東部海浜開発局	事務局

### 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会会則

(総則)

第1条 本連絡会は、泡瀬地区環境利用学習推進連絡会と称する。

(目的)

第2条 泡瀬地区における環境学習を継続・発展させるために、関係する機関・団体等で定期的な会議を持ち、情報や人材等の相互提供できるような連携体制を築くことを目的とする。

(構成)

第3条 本連絡会は、基本的に泡瀬地区における環境利用学習に関係する次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命・依頼する。

(1) 学識経験者

(2) 地域団体

(3) 行政

(4) その他市長が必要と認める者

2 本連絡会を構成する学識経験者や機関・団体等は、必要に応じて承認を得て追加できるものとする。

(活動内容)

第4条 本連絡会の目的を達成させるために次のことを行う。

(1) 環境利用学習の啓発及び実践促進

(2) 環境利用学習プログラムの利用促進

(3) 環境利用学習運営の検討

(4) その他本会の目的達成に必要な事項

(会議及び運営)

第5条 会議は、必要に応じて開催するものとする。

2 会議の進行役は、沖縄市東部海浜開発局計画調整課長とする。

3 計画調整課長は、会議を招集するものとする。

4 沖縄市東部海浜開発局計画調整課は本連絡会の学識経験者や機関・団体等と連携して、本連絡会の運営を行う。

附 則(平成21年7月28日決裁)

この会則は、平成21年7月28日から施行する。

## <会次第（第2回）>

### 平成25年度 第2回 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会 会 次 第

日時：平成25年 11月18日（月）10:00～12:00

場所：沖縄市役所 5階 建設部会議室

- (1) 開会
- (2) 第1回まとめ（議事要約参照）
- (3) 紙芝居の取り組みについて  
ストーリー検討  
制作にあたっての今後の検討
- (4) 次回の開催予定について  
平成26年2月3日（月）10:00～12:00  
場所：沖縄市役所5階 建設部会議室
- (5) その他
- (6) 閉会



#### ※配布資料

- 平成25年度 第2回泡瀬地区環境利用学習推進連絡会会次第
- 資料1. H25年度 第1回泡瀬地区環境利用学習推進連絡会議事録（議事要約）
- 資料2-1. 紙芝居作成時の目的と概要（案）
- 資料2-2. 紙芝居ストーリー検討
- 資料2-3. タイトル（1案）：「アーシヌウミーの生き物ががし」  
～環境紙芝居作成にあたっての検討事項（その1）～
- 資料2-4. 箱絵（絵コンテ）  
～イメージ（案）～
- リーフレット「泡瀬の海でカニを観察しようカニ・・・」

#### ○概要

- (2) 第1回まとめ（議事要約参照）
- (3) 紙芝居の取り組みについて

##### ストーリー検討：

事務局案……第1回案（泡瀬地区のここから海です）却下

第2回案 泡瀬干潟で観察できる生き物について

各委員意見 ・何をこの目的でいいの？ 対象とかどうなの？ この先どうやって使うの？

目的（事務局案）……紙芝居を通して、泡瀬干潟に関心を持ってもらい、より泡瀬干潟について理解し、知ってもらうため、まずは泡瀬の海辺歩きをする人々を増やすことを目的に、紙芝居制作を展開します

各委員意見 ・理科離れとか自然に興味を持つ人が少なくなっている これが多分、テーマ。  
・思ったのは、テーマが、何も無いと思ったところに、いるよ、というのがテーマと思う。それを伝えればいい。

枚数（事務局案）……16枚位（多くても18枚位）、適した時間は10～15分

各委員意見 ・作家さんによっては、暴走されてしまう方もいると思いますので、サンダーバードで、という感じの確固たるものをもっていただく方がいいです。  
・でも、暴走しても17枚とか決まっていたらいいのではないかと。

対象（事務局案）……小学校低学年

各委員意見 ・絵本であればいろいろな学年で何で読まれているのか、というのを分析しているものがいっぱいある。  
・5年生になる前に、泡瀬の事をちょっと知っておいてという話だと思う。  
・どの時間でそういうのが出来るのか？  
・3年生の時の最初の社会科の授業。

使用方法（事務局案）……小学校や関連教育施設などに配布して、泡瀬干潟について、より関心をもってもらう

各委員意見 ・読み聞かせなどで、生き物とか自然とかの物は伝えにくい。  
読み手の方が知らなければ、どんな風に共感していいの？、どんな風に伝えていったら分からない。  
・学校で紙芝居を読む機会はある？  
・1・2・3年生はある。  
・読み聞かせする人向けの観察会というのがあるといい。  
・本格的な観察会をやることも考える。  
・コーディネーターの人もいるので、つながるのでは。  
・それを使ってもらうための読み聞かせの人のための観察会を行う。  
⇒全部の小学校へ観察会の際に、ネットワークを使って、宣伝する。  
※そういうのを目的として、しっかりと出すことが大事。

絵コンテ（事務局案）……資料2-4で示す（イメージ説明のため）

各委員意見 ・絵コンテは作家殺し、というか作家の感性が全く出なくなる。テーマをいくつか、干潟にいろいろと環境があるよ、というテーマでもいいし、こういう生き物があるよ、というでもいい。それを作家さんに投げて、作家さんから絵コンテを上げてもらう。  
・トータルで泡瀬をどうしてほしい、とか、そういう部分をこちらがしっかりと決めておけば、その先がブレなければ、後の内容は登場人物で適当に作ってもらえればいい。  
・ちょっと肯定的にとらえていて、どういう風に考えるかはいろいろではあるとは思いますが、一見、何も無いけれども、「いるよ、」というのを伝えたい、というテーマであると考えたら、絵コンテがあるのと無いのでは、そういうことであれば、それを伝えればいいわけであるので、だから生き物がこんなのがいて、何も無い、一見にも無いと思うけれども、実はこれが生き物がいる証拠だよ、とか生き物が作ったものであるとか、というストーリーですよ。それが、ストーリーだから、テーマとしては、例えば、こんなのがいるよとか、という絵コンテとして考えてもいいのかなと思います。  
・イラストレーターが決まったらイメージを共有する、この資料2-1だけをこの場で話し合えばいいわけ。例えば低学年でもそういうところをねらっているとか、紙芝居でも読んで終わりではなくて、その後例えは劇とかの方向に進める。  
・<絵コンテ>情報として干潟に行くとか何も無いと思う所にこんなのがいる、地面にこんなのがいる。  
（それがなければ、歩いている時に地面としか思っていないけれど、何も気づかない⇒それが作った痕跡などいろいろとあるという視点は持ってね⇒現場で用いて情報伝える）  
・山があって、谷があってではないですけども、そういう抑揚というのは必要になってくる。

